# こどもコミュニケーションフォーラム（第5回，第6回）報告

浅川　陽子

## 1. はじめに

こどもコミュニケーションフォーラムは，子どもの成長過程を見据え，健全な成長を導くために，子ども，家庭，学校，地域，その他の社会的関係をつなぎ，相互に協力，情報交換をする人々の学びの場である。フォーラムにおいて，参加者が学究的な情報や教育研究の成果に学び，子ども・子育て支援や保育・児童教育に貢献する営みへの持続的な意欲を高めることを目的とする。2013年度から江戸川大学こどもコミュニケーション研究所（2016年度にセンターから研究所に名称変更）が主催して毎年実施してきた。

こどもコミュニケーション研究所は，子どもの育ちの解明を保育学，教育学，心理学，情報学，社会学を基礎としつつ異なる専門分野や実践家と協働しながら行い，よりよい保育，教育のための研究を推進する組織である。江戸川大学におけるこどもコミュニケーションに係わる研究を統括して学生の教育に還元することや，地域社会における子どもの保育，教育及び子育て支援に係わる事業に貢献することをねらって活動を展開している。

第1回フォーラムについては2013年度『教育総合研究』第2号（江戸川大学教職課程センター），第2回・第3回フォーラムについては2014年度『教育総合研究』第3号（同上）に成果をまとめた。

本稿ではその後の第5回，第6回フォーラムについてふり返り総括を行う。

## 2. 第5回こどもコミュニケーションフォーラムについて

**【メインタイトル】** ヒロシマ・平和への祈り

**【サブタイトル】** 絵本『いのりの石』講演会と学生による朗読と歌＆原画展

**【日程】** 2016年12月3日（土）

11時～13時　アイスランド共和国紹介展示

アイスランド毛糸の羊づくりワークショップ

13時～14時

『いのりの石』作者こやま峰子さんの講演会

江戸川大学生による朗読と歌

場所　流山市おおたかの森センター　ホール

定員　80名

ワークショップ材料費100円，他は無料

事前の一週間，「いのりの石」原画展の先行開催

**【内容】**

広島市を走る路面電車の被爆敷石に平和への願いを込め，世界に贈る市民活動を題材にした絵本『いのりの石　広島・平和へのいのり』が刊行された。今回のフォーラムでは，この絵本を取り上げた。

文章は，詩人で児童文学作家の，こやま峰子さん。国や世代を超えて平和を祈り，他人を思いやる心を伝えている。作者本人の講演を聞くことにより，より一層内容理解が深まると考えた。

絵は，戦争について表現し続けている絵本作家の塚本やすしさんが「（原爆の惨事前後の）一瞬の表情を考えぬいた」という力作。原画をお借りすることができたので，「いのりの石」絵本原画展もあわせて先行開催した。

さらに，こやまさんのご紹介で，絵本の舞台となったアイスランド共和国の大使館や日本アイスランド協会の後援を得ることができた。アイスランド共和国の防災や文化の紹介展示をいただけることになり，より一層絵本理解に資することができた。また，なかなか手に入りにくいアイスランド毛糸を使った羊づくりワーク

ショップを行うことも可能となったのである。協会の皆様のご理解とご協力の賜物である。

なお，絵本の朗読や歌は，江戸川大学こどもコミュニケ―ション学科学生（2年生・3年生有志）が担当した。

原画展

アイスランド紹介

アイスランド毛糸の羊

羊づくりワークショップ

こやま峰子さんのお話

学生による朗読と歌

学生による受付

**【全体ふり返り】**

フォーラム当日の来場者は約100名，羊づくりワークショップの参加人数は約50名であった。

講演会・朗読会に来場した方を中心に，アンケートにご協力いただいた。

アンケートの結果，情報入手の方法（単一選択）については，「大学広報：1名，ポスター：1名，ブログと保育園：1名，日本アイスランド協会：1名，インターネット：1名，チラシ人：1名，人から聞いた：3名」といった多岐にわたる情報入手の方法があったことがわかった。

良かった企画（複数選択）としては，「絵本の原画展：4名，アイスランド共和国の展示：4名，絵本の講演会・朗読と音楽：6名，アイスランド毛糸の羊づくり：5名」と，それぞれ好評であった。特に学生による朗読と歌についての評価が高く，参加した学生はほっと安堵した様子であった。大勢の前で初めての朗読と歌に，やる前はとても緊張したが，拍手をもらって胸がいっぱいになったと口々に言っていた。

アンケート自由記述としては，以下の通り。

・学生が頑張りました。歌も朗読も素敵でした。
・学生による朗読と音楽はすばらしい！
・アイスランドについて知ることができ良かった。羊づくり難しかったですが，優しく教えていただいて作ることができました。ありがとうございました。うれしかったです。
・平和について自ら考える機会は少ないのでよい経験になりました。貴重な経験でした。
・小山先生のお話が良かったです。
・アイスランドってどんな国か，全く知りませんでしたが（雪国かと），30年以上，世界の平和を願い，広島・長崎原爆被害の鎮魂のため「灯篭流し」をずっとしているとは，びっくり。日本とアイスランドの友好関係を初めて知りました。

**【学生の活躍と成長】**

こどもコミュニケーション学科3年生（専門ゼミ生）を中心に2年生を加えて計11名，有志での事前準備と当日の運営を行った。

事前準備の内容としては，1週間前の原画展の設営，絵に添えるキャプションの制作，絵本「いのりの石」朗読の練習（4名），歌の練習（2名），朗読と歌を合わせる練習，毛糸の羊づくりの練習。

フォーラム当日の運営としては，会場づくり，案内や誘導，毛糸ワークショップの講師手伝い，朗読と歌への出演，そして会場の片づけや掃除，などである。

フォーラム企画については教員が原案をたてるが，実際の準備や運営については学生たちの力に負うところが大である。フォーラム当日，参加者の市民の皆様と臨機応変にコミュニケーションをとり，説明をしたり質問を受けたりして，学生たちは戸惑いながらも自分で考える体験をした。そのことは机上では学べない貴重なコミュニケーションの学び体験である。学生の感想には「疲れたが充実感があった」「熱心に聞いてくれる大人の方々がいることに驚いた，朗読をほめてもらってうれしかった」「ほんものの絵本作家さんの前で，その方の本を朗読したり，歌ったりするのがすごく緊張した」「毛糸の羊を大事そうに持って帰ってくれて，小さな子にありがとうと言われてうれしかった」

ふり返ってみると，学生は先生ではない一般市民に「ほめられる」ことによって初めて公共的な意味での安心感と自分への自信の芽を少しずつ育てているように思われた。ふだん自分が居るところとは異なる社会の人々から，予期せぬ称賛を受けるという体験は，学生にとって確かな自己肯定感につながり，成長の糧となることが実感できたのである。

**【流山市防災フェアの一部イベントとしての開催】**

今回のフォーラムは研究所単独ではなく，流山市防災フェアのひとつのイベントとして実施した。その理由は，おおたかの森駅周辺で大勢の方（約3,000人）が集まる大きな市民イベントに参加，協力することによって，大学およびフォーラムの認知も広がると考えたからである。

そこで，防災フェアの準備会にも教員が必ず参加し，協賛金をはじめとして当日の防災体験ツアーに学生ボランティア約20人が参加するなど積極的な協力をした。

防災フェアの一環としたことによって，フォーラム会場としての流山おおたかの森センターホールを無料でお借りすることができた。また，

学生のみならず大学教員も地域でさまざまな活動を展開している市民団体の方々と親しくなる貴重な機会となった。

また，一週間という長い期間，絵本原画展をひらくことができたのも，流山おおたかの森センター運営事業者の方々のご協力が得られたからこそである。正面玄関前の廊下スペースでは，通りがかりに絵の展示に見入る大人，子どもの姿が多く見られたとのことである。

大学が地域社会のなかで，絵本というメディアを介して専門的な意味で存在感をアピールする良い機会であった。

## 3. 第6回こどもコミュニケーションフォーラムについて

**【タイトル】**幸せな未来は幸せな子どもたちから～子どもの幸福度世界一，オランダに学ぶ子育て

**【講演者】**リヒテルズ直子（教育・社会研究家）

**【日程】** 2017年6月10日（土） 13時～15時
江戸川大学メモリアルホール

**【目的・内容】**

オランダの教育・社会事情の研究者であるリヒテルズ直子氏の「こどもの幸福度世界一」のオランダ流“子育て”についての講演会を企画した。

オランダの教育制度は競争のない多様な学校，学校を選ぶ親の権利，教師の授業の自由などヨーロッパの中でも斬新とされる。“個性”と“社会性”をともに伸ばす教育が行われている。オランダでは，親たちは「幸福体感度の高い子どもに育てる」子育てをしていると言われている。リヒテルスさん自身の体験や具体例なども交え，教育のあり方について考えるフォーラムである。

流山市近隣の，子育て中の保護者や教育関係者の方々，学生や研究者の方々などに参加を呼びかけ，日本のこれからの保育・教育について視野を広げ研鑽を深めることを目的とした。

**【参加者】**（計90名）

こどもコミュニケーション学科1年生から4年生の学生（約40名）
流山市や近隣の市民（約30名）
教育研究関係・報道関係（約20名）

**【参加者の幼児一時預かりについて】**

事前申し込み5名（2歳から5歳）一時預かりを大学D棟多目的室にて行った。保育士1名と学生保育アルバイト1名がつくことにより，安全安心で子どももよく遊べ，好評であった。なお実費一人500円とした。

**【感想アンケートより】**アンケート〔回答8割強〕

① どこで知りましたか
大学HP 2人　研究所メーリングリスト2人　FB 2人　市などの広報流山センターFBなど3人　チラシ 2人　知人から26人　こくちーず　5人　リヒテルズさんの日程から　3人

② 内容について
とてもよかった36人　よかった6人
ふつう1人

③ 年代（江戸大学生はのぞく）
10代1人　20代7人　30代13人　40台12人
50代4人　60代3人　70代1人

④ 感想（市民一般）

・大人になって，親になって苦労する日本。それは日本が特有ということを知ってよかった。理系育ちの私は，税金の話も労働の話も，子育ての話も学ばずに大人に育ってしまいました。次世代には多様性や広い分野を学べるように働きかけたいと思います。今までの勉強が生活の役に立たないことを山ほど感じています。
・他の人と違う意見を言ってよいのだということを子どものうちから学校や社会で経験させたい。
・尊敬するリヒテルズさんに会えてよかった。
・日本の教育の課題を他国と比較しながら具体的な内容をきくことができたのが，とてもよかった。おもしろかったです。ありがとうございました。
・今日の社会的背景からあるべき教育の姿，及びそれをイエナプランがどのように体言しているのかについて把握することができた。その考え方や制度をどう適用することが，日本の教育をあるべき姿に導くために必要かどうかに

ついて，再度考える機会にしたいと考える。
・未来を担う子どもたちのことをすべての大人が真摯に向き合わないといけないと強く思いました。
・制度のことや基礎的な社会とのつながりで教育を考えることができてよかったです。教育根本につながる問い……とくに教科寄りでないコース・分野寄り発育のコースと，年齢で区切らないで子どもの成長を考える。ずっと思っていた問いにつながるお話がきけてよかったです。
・なかなか思うにまかせぬ子育てを，とてもシンプルな言葉とわかりやすい話が心に響きました。
・気づきと学びが多かった。触発されました。ありがとうございます。
・とても刺激になりました。日本の現状を考えると本当にがっかりしますが，現状を変革するために学ぶという姿勢が必要ということを確認できたように思います。私も，これからも学び続けることを大切にしていきたいと思います。
・子どもを育てる身，在宅で働く身として非常に興味深いお話でした。オランダの授業風景は衝撃的でした。
・海外の保育や子育ての話は，在住されている講師のお話が一番わかりやすく，具体的であると感じました。様々な国の教育制度を教えていただき，「教育・保育・学校とは何か？」を自分自身が考えるきっかけになりました。現在，保育者養成の仕事をしておりますが，学生指導にも生かされる内容もあり，非常に有意義でした。ありがとうございました。
・オランダの授業の様子がとても印象的でした。民主主義を学ぶということをとてもシステマティックに考えられていて，勉強になった。
・公立学校の教員になりたい人間として，新しい視点をえることができて，勉強になりました。有意義な時間をすごせました。
・海外についてたくさんの情報を取り入れることができた。満足している。
・質疑応答の時間があってよかった。
・5年ほどイエナプラン，オランダのことを学んでいますが，いつ聞いてもうなづけます。「学習する学校」もちゃんと読みたいと思います。
・子育てをテーマにした講演を他にもやってほしい。

⑤　感想（江戸川大学　学生　抜粋）

・子どもたちに問いかけていき，子ども同士で話し合い，子どもたちが主体となるような教育の形に変わっていくといいなと思いました。
・日本はルールを重視し，一つ一つのことがはっきり分かれている。「先生」主体の教育方法だが，今回紹介してもらったオランダを例に出すと，“個々の意見を重視し，教える人も大人だけではなく，子ども同士が教えあう関係を大切にする。自分の責任をもつことへの練習を教育で行っている。日本では，教室では形式だけの会話の場が多いので，もっと上の学年や下の学年と関われる場をまずは作っていくことが必要だと思いました。
・様々な国で様々な教育があることを知った。オランダではシティズンシップを取り入れ，表現の自由を大切にしていることがわかった。日本はあまりNOがいえる国ではないため，他の考えに対し，意見を言えていることが凄いなと思った。
・子どもたちへの言葉かけは，だめだめではなく，本人に考えられるような言葉かけをしたいと思った。
・シンガポールの「Thinking Schools, Learning Nation」は，先生の側からの改革と聞いて，とてもよいと思いました。日本でもあるとよいなあと思いましたが，フォーラムなどで行っていると聴き驚いた。
・指名して意見を言わせる⇒子どもが「先生の正解に合わせて発言する」，というのは子どもの安心安全ではない，という話，確かにそうだと思った。自ら発言，学び始めるということを聴き，保育士や子どもに関わる仕事に就く身として，受け入れることや声かけも大事だが，自発的に学び始めるのを待つことも大切だと思った。
・今日の話を聴いて，他の国の教育にも興味を持ちました。日本は，共稼ぎ家庭で一緒に食事ができなかったり，学校ではいじめがあっ

たりします。オランダの孤独感が2.8％というのに驚きました。

・日本にいるので，日本の教育が当たり前になっていますが，いろいろな国の文化や人種によって，方法もあることを改めて感じました。私を含め，日本人の多くは自分の意見がなかなか言えない人が多く，そこが日本人のよいところでもありますが子ども自身が自分の考えを導き出せるような環境を作っていくことが大切だということがわかりました。

・“まず大人が幸せにならなければならない”前向き，元気に幸せで心の余裕がある保育士，先生になりたいと思いました。一人ひとりにあわせた教材がある。⇒すごーい!!!　なるほど。科目別をやめてテーマで授業をやり，幼い時からグループで考え，話し合いをし，考える能力やコミュニケーションをたかめさせている。4歳から「性」や「てつがく」を学んで，差別感をなくし，自分で考える，学ぶ，発表や話し合いで将来役に立つような授業をしている。今日の話を聴いて，日本は「これはこうだ！」などの考えが定着しているので，もう少し，差別の話など，子どもが積極的に自発的に学びたいと思うような授業をと思いました。今日はお話を聴けて，勉強になりました。

・偉い人＝選択肢を持っている人。1＋1=2ではなく，それ以上のことが出るように。そのためには安心安全が大切。どんどん遊んでどんどん失敗すべき。このことは保育にも取り入れて考えていきたいと思った。

・オランダの教育は，子どもを「植物の芽」として考えた。素敵な社会は，木があり，木陰に様々な花，草があること。すべての子どもを「大木」に育てるのは違う。これがとても印象に残った。映像ではオランダの教室の様子をみた。異年齢のグループで活動していて，子どもたちが協力して小さい子の面倒やわからない子の面倒をみていた様子がとてもよいなと思った。学校は社会の練習であることも「討論」の様子でよくわかった。子どもたちの主体性を重視し，大人が介入しすぎないことが見られた。保育にもこのような考えが必要だなと思った。

・社会へ送り出すことを考えて，教育を変化させていかなければ，これからの社会でやっていけないことがわかった。人が人として生きていくことができる世界を作っていかなければならないと思った。相手が言ったことに対して，何も言えずになってはいけなく，自分の意見も言える自由さや，受け入れる心をもち，相手とともに教えあう場を作る必要がある。

・オランダではワークシェアリングによって，フルタイムでもパートタイムでも賃金の保障ができており，勤務形態の自由度が高いため，家庭での親子の触れ合いがしっかり持てていると知った。教育とは，決まりきった答えや事実があるのを学ぶだけでなく，自ら考え，問い続けることを学んでいくことが大事だと聞いた。

・「物質的豊かさ」は10位でも，「自分たちからみた豊かさ」が1位で，そう思って生活できるのっていいなと思った。トランススジェンダー，同性愛の子どもたちが電話をかけて相談でき，学校にも（問題を指摘し，対処するように）連絡がいくと聞いて驚いた。社会を変えようとするのってすごい……。

・オランダの子どもたちの主観的な豊かさが一位の理由が，大人が楽しく暮らしているからだと聞いて，なるほどと思いました。日本の大人は忙しくて余裕がないから，子どもまで気がまわらないのではと思いました。

**【全体ふり返り】**

学生の感想を読むと，リヒテルズさんの柔らかな語り口にひそむ，今の日本社会に内包されているものへの鋭い指摘を，一生懸命に聞いていたことがわかる。学生は自分自身にひきつけて講演テーマを考えていた。

「協力する」「想像する」「自分の頭で考える」という能力を育てることを重視する「イエナプラン」や「シティズンシップ教育」を政府が率先して導入しているということに学生のみならず参加者は真剣な表情で聞き入っていた。

2013年発表の先進21か国の子どもを対象にしたユニセフ調査によるとオランダは子どもが自分で自分を幸せと思う「主観的な豊かさ」1位。リヒテルズさんの「選択する自由があって

こそ，責任が生まれる」という言葉にうなづく参加者の姿が多くみられ，身の回りの保育教育の「当たり前」を，今一度見直す，よい機会となった。

学生の感想からも目から鱗が落ちる思いになった様子が読み取れる。将来，子ども達を育てる仕事に就く彼らにとって，普段と異なる視点からの貴重な言葉を聞き，驚き，ふと考える体験となったものと思われる。自分の「普通」を考えなおすことこそ，自己変革の学びであり，それは小さくても確かな成長の芽となるに違いない。

このフォーラムは『世界日報』(2017年6月20日）や『私塾界』(8月号）でも取り上げられ，今の時代，保育教育問題への関心の高さが伺われた。

また，講演中の幼児一時預かりについては，とても好評であった。親は日常から離れた学びの機会があることを喜び，子どもは保育士と学生に出会い新しい人間関係のなかで楽しく遊び，学生にとっては子どもや保護者と関わる実の学びの場となった。保育物品の充実に努め，かつ保育室の安全面に配慮をしながら，市民の要望に応えての幼児一時預かりも継続していきたい。

リヒテルズ直子さん

研究所長あいさつ

学生の主体的参加

受付では3年生が活躍

メモリアルホールでの講演会のようす

熱心な質問もでました

# 絵本『いのりの石』をめぐって

## 江戸川大学 第5回こどもコミュニケーションフォーラム
## 2016流山市防災フェア関連企画

広島市を走る路面電車の被爆敷石に平和の願いを込め、世界に届ける市民活動を題材にした絵本『いのりの石　ヒロシマ・平和へのいのり』をめぐる各種イベントを開催します。絵本の舞台となったアイスランド共和国の紹介展示やワークショップも行います。ぜひお越しください。

### 《絵本の講演会・朗読会》

■日時　12月3日(土) 13:30～14:30
■場所　流山市おおたかの森センター ホール
■講師　こやま峰子氏(詩人・児童文学作家)
■朗読と音楽　江戸川大学メディアコミュニケーション学部
　こどもコミュニケーション学科 学生
■人数　定員80名　要事前申込(下記問い合わせ先まで)
■費用　無料

### 《絵本の原画展》

■日時 11月27日(日)～12月3日(土)
　9:00～21:00(最終日は15:00まで)
■文・こやま峰子、絵・塚本やすし
■場所 流山市おおたかの森センター
　廊下展示スペース (入場無料・申込不要)

### 《アイスランド毛糸を使った羊のマスコットづくり》

■日時　12月3日(土) 11:00～13:00
■場所　流山市おおたかの森センター ホール
■人数　先着80名　予約不要
■費用　一個あたり100円(材料はこちらで全て用意します)

問い合わせ先 流山市おおたかの森センター　TEL 04-7159-7031
開館時間　9:00～21:00　定休日なし
住所 流山市市野谷621番地の1　流山おおたかの森駅より徒歩11分
※流山市おおたかの森小、中学校との複合施設です。
　駐車場は数少ないため公共交通機関をご利用ください。

共催 江戸川大学こどもコミュニケーション研究所
　流山市おおたかの森センター指定管理者アクティオ株式会社連合体代表団体アクティオ株式会社
後援 駐日アイスランド大使館、日本アイスランド協会

## 第６回 江戸川大学こどもコミュニケーションフォーラム

リヒテルズ直子氏

**リヒテルズ直子氏のプロフィール**

教育・社会研究家、著述家、日本イエナプラン教育協会特別顧問、Global Citizenship Advice & Research 社代表
下関生まれ福岡育ち。九州大学大学院で修士課程（比較教育学）と博士課程（社会学）を修了。１９８１－８３年国際文化教育交流財団の報償奨学生としてマレーシアのマラヤ大学に研究留学。この間、トレンガヌ州のマレー農村で社会構造を入村調査。１９８３－９６年オランダ人の夫とともにケニア、コスタリカ、ボリビアに居住。この間、２児の育児の傍ら、英語およびスペイン語の通訳・翻訳業、また現地大学での講義などを受け持つ。１９９６年よりオランダ在住。以来、小学校から大学までの育児に関わりつつ、オランダの学校教育と社会制度について自主研究。書籍・論稿などでの発表のほか、学会や市民団体の会合などで講演・ワークショップを実施。また、オランダの教育研究者・専門家らを日本へ招聘してのイベントの企画・実施に関わり、さらに、日本からの研究視察への協力や研修の企画実施など、日蘭両国の市民レベルの教育・社会交流の架け橋として活躍中。

●主な著書
「オランダの教育 ― 多様性が一人一人の子どもを育てる」平凡社　2004
「オランダの個別教育はなぜ成功したのか ――― イエナプラン教育に学ぶ」平凡社　2006
「オランダの共生教育」平凡社　2010
共著「公教育をイチから考えよう」（苫野一徳）日本評論社　2016
翻訳「学習する学校」英治出版　2014
DVD「明日の学校に向かって ―― オランダ・イエナプラン教育に学ぶ」グローバル教育情報センター　2015 など多数

**2～6歳の幼児の一時預かり（500円）あり。要事前申し込み・先着５名**

**お問い合わせ・お申し込み**
江戸川大学　千葉県流山市駒木４７４
電　話　０４－７１５２－９９０８
メール　kodomoc@edogawa-u.ac.jp

主催 江戸川大学こどもコミュニケーション研究所　後援 流山市（申請予定）